

2019年度協定留学プログラム  
派遣学生留学状況報告書

非公開希望	項目	内容
	所 属	法学部 政治学科 4年（留学年次） 4年（帰国年次）
原則 公開	留学先	※大学名、学部、学科名を記入してください。 マードック大学、School of Arts
原則 公開	留学期間	※実際の留学期間（留学先での授業期間）を記入してください。 2019年2月11日～2019年12月9日 出国日 2019年2月11日 最終帰国日 2019年12月9日

留学の状況について、各項目について書いてください（合計1,500字以上）。これから海外留学をする学生にとって貴重な情報となりますので、なるべく仔細な記述をお願いします。

### 1. 留学全般について

#### (1) 留学当初の所感（第1・2回目報告書記載）について、自己評価や、留学前からの意識の変化等

留学前は都会で生まれ、都会で育ち、あらゆるものが24時間手に入るとても便利な生活に慣れていました。しかし、オーストラリアという自然豊かでお店も夕方には閉まってしまう国へ留学に行き、都会にはないのんびりとした、人が時間に迫られていない穏やかな生活の良さや緑の多い山や透き通る海の魅力に気づきました。たとえ電波が無くても、娯楽の場がたくさんなくても、自然そのものと気の置けない友人がいれば楽しいのだと考えるようになりました。汚いものはだめ、拒否という幼い頃からの考えが大きく変わったということです。また初めて両親と離れ、一人暮らしを経験したことで、これまで自分がいかに親に頼って生きてきたのか痛感し、感謝の気持ちを伝え、自立することの大切さを学びました。他にも、留学以前は人種や国籍によって無意識のうちに“違う考えを持ち、違う生き方をしている人”と決めつけていましたが、彼らと交流していく中で生まれた場所や育った文化、環境は異なっても同じ人間で、同じように物事を考えているのだなと気づきました。この留学期間でヨーロッパからアジアまで様々な国から来た同年代の学生と仲良くなったことで、こうした無意識に自分が抱いていたステレオタイプに気づくことができました。また、日本の伝統文化や慣習、考え方を外国人に伝えたいという目標は、日本語を現地の高校で教えるボランティアや大学のオープンキャンパスでのボランティアなどを通して達成できました。また書道や茶道を着物を着て実際に披露し、英語でその魅力について話すことで、日本人とは異なる点に注目する外国人の新鮮な反応を知ることができました。留学前に日本文化や日本の社会、政治問題などについて特に力を入れて学んでいたため、外国人の友人と互いの文化について話し合う中でそれらを発信し、かつあらゆる文化に触れることができました。異文化を

知るためにはまず自分の国のことを知ることの大切さを学びました。

## (2) 留学前にもっと準備をしておけばよかったと感じること

特に後悔はありませんが、VISAの手配や航空券手配はもっと早めにしておけばよかったと思いました。(全て重要な手続きを1月に行ったためバタバタしてしまいました。)

## 2. 留学先大学について

### (1) 留学先大学の授業や教授等についての印象や感想

現地の授業では生徒一人ひとりがしっかりと意見を持って授業に参加しているため、初めの頃は言いたいことが頭に浮かんでも発言できないもどかしさに苦難しました。それでも毎回何でもいいので発言することを心掛け、自分なりにできる工夫をしました(例えば、ツーリズムの授業であれば、毎回教授がツーリズムに関わる時事ニュースを聞いてきていたので、オーストラリア国内のみならず日本や世界の観光名所に関わるニュースを事前に調べていた)。予習を毎回しっかりと行い、その日の授業内容をしっかりと理解したうえで受けることでネイティブとのギャップを埋め、ディスカッションなどでも意見を交えられるようになりました。教授は授業によって異なります。同じ科目であっても、日本と違いいろいろな曜日があり、複数の先生がいます。ノンネイティブに対し優しい先生もいれば、ここに留学してきている以上やはり一定のレベルを求める先生もいます。ただどんな教授に当たったとしても自分なりに努力することが求められるには変わりありません。自分が勉強に興味を持っていれば、その環境も楽しめますし、いい経験になります。日本人留学生のコーディネーターとして日本人の先生がいらっしゃいますが、定期的にお宅に日本人交換留学生を招いてくださり、ハウスパーティーがあります。また日本語を現地のオーストラリア人高校生に教えるボランティアを紹介して下さったり、現地についた翌日に無料で前年度の留学生からの生活必需品を渡して下さるマーケットがあったりとサポート体制はとても整っています。また先生がアポイントメントをとってくださり、三菱商事パース支店に訪問したり、外務省の方とお話できる機会などがありとても有意義でした。

### (2) 留学先大学のキャンパスや施設についての印象や感想

自然豊かで広々としたキャンパスでした。ブッシュコートという芝生の大きな広場が中央にあり、ベンチに横になりながらランチをしたり、お喋りしたり、勉強したり、のんびりとした雰囲気の中でのびのびと生活できました。新しい大学であることもあり全体的にとっても綺麗で、図書館などは24時間で飲食も可能であったため、夜中まで友人とよく勉強していました。ランチを購入できる場所や、カフェなどもレパートリー豊富で充実していました。

### (3) 留学先大学の留学生に対するサポート体制について

語学面：留学生を対象とした語学補習講座のようなものが授業として或いは授業外で開講されているのかどうか、また開講されている場合は、その時間数や内容、費用等につ

いて書いてください。

半期ずつ日本語専攻のオーストラリア人生徒と私たち日本人留学生がバディを組み、互いの課題に対しアドバイスしたり、添削しあったりするプログラムがありました。毎週決まったお昼休みにお喋りしたり、課外で遊びに行ったり使い方は自由です。また週に一度、日本人の先生とオーストラリア人の日本語学科の教授が交代でエッセイの書き方やオーストラリアの祝日、行事などについて学ぶ授業を行ってくださいます。オーストラリアの基礎知識が身につくうえ、英語でのビジネスメールの書き方なども教えていただけるため、とても役に立ちました。またノンネイティブ向けのエッセイやプレゼンテーションの基本を教わる授業があり、アットホームな雰囲気でもあるため、そこでは物怖じすることなく重要な部分を学ぶことができるため有用であった。

**生活面：生活面のサポートや留学生向けのイベントについて書いてください。**

交換留学生向けにノーストリップやサウストリップ、またウェルカムパーティー、フェアウェルパーティー、パースの観光名所を巡るツアーやフリーランチフリーディナーのイベントなどが大学によって催されます。ヨーロッパ、アメリカ、アジア様々な国から来た交換留学生と仲良くなることができます。私自身ドイツ人留学生と最も仲良くなり、よく一緒に勉強したり、遊びに行っていました。大学寮主催のイベントも多数あるため、オーストラリアの生活を楽しみ、ソーシャライズができる場は豊富にあります。

**資金面：現地で得られる奨学金等の情報があれば書いてください。**

オーストラリア政府からの奨学金 **“Endeavour Cheung Kong Student Exchange Scholarship 2019”**

**(4) 留学先大学周辺の治安について書いてください。**

治安はとても良く、友人と一緒にあれば夜出歩いても問題なかったです。また大学周辺やパースシティも一人で出歩いても全く問題がないほどでした。心配であれば大学から寮まで夜間のガードを頼むことができます。ただ基本的に友人と夜中まで勉強して一緒に帰るといような生活を送っていました。

**(5) その他留学先大学についての印象や感想があれば書いてください。**

自然の多いこの大学の雰囲気はとてものびのびとしていて日本とは全く異なる環境の中で勉強することができます。また、この大学の特徴として、大学の半分以上の生徒が留学生であるため、オーストラリア人のみならずあらゆる国籍の友人をつくることができます。交換留学生向けに本当にたくさんのイベントが用意されているので、外国人の友達との交流に困ることは全くありません！！

### (6) 留学先での履修科目等

※本学での単位認定に関係なく、①に派遣先で履修した科目名をすべて記入してください。単位が認定された場合は、その科目の②に本学での科目名を記入してください。行は適宜追加してください。

※成績証明書を添付してください。

①留学先での履修科目名 (単位数)	②本学で単位認定された科目名 (単位数)
TOU101 Introduction to Tourism Systems	
TLC101 Communication Skills for Undergraduate Study	
IND101 Indonesian1	
BUS124 Global Marketing	
TOU102 Travel and Tourism in Society	
IND102 Indonesian 2	

### 3. 宿舎について

#### (1) 種類

大学の寮

#### (2) 家賃

月額 (現地通貨) 約 800AUD、(日本円) 約 6 万円

#### (3) 食事

自炊

#### (4) 大学までの交通手段、所要時間

徒歩 3 分

#### (5) 感想、良かった点・悪かった点

立地はパーフェクトでした。大学の真横に位置しているため、夜の 3 時まで図書館で勉強していても簡単に帰ることができ、とても便利でした。また Village が毎日何かしらイベントを開催しているので、参加することでたくさんの友達をつくることができます。具体的には、フリーディナー、フリーパンケーキ、フリーアイスクリーム、プリズンツアー、AFL、フリーズンバやフリーヨガ、クッキングクラスなど本当に多くのイベントがありました。ただやはり異なる人種、異なる国で生まれ異なる教育を受けてきた人同士がともに生活することで多くの問題が発生していたのも間違いありません。掃除の文化も違えば、騒音に対する考え方も違います。日本人のように人に迷惑をかけないようにと気にしている人は正直言ってマイノリティーです。食器をすぐに洗わない、ごみを捨てない、夜中まで大音量で音楽を聴くなどでルームメイト同士がもめて誰かがムーブアウトするといった例は前期にも後期にも経験しました。自分がストレスに感じるがあったら我慢するのではなく、言葉にしてはっきり伝えることが大事だと思います。またどこかで違う文化だから仕方がないと受け入れることも良案だと思います。人との距離の取り方や共同生活するにはどんな配慮が必要か、何を自分でやらなければいけないかなどをも学べると思います。

#### 4. 費用について

##### (1) 学 費

(現地通貨) 約 AUD 0、(日本円) 約 0 円

##### (2) 渡航方法と金額

飛行機、(日本円) 12 万円 (ただ、帰国時はこまめに航空券の値段の変動をチェックしていたため約 6 万円で済んだ。渡豪時はチケットを取ったのが 1 か月前を切っていたため、高値であった。)

##### (3) 生活費

(現地通貨) 月額・年額 約 13 万円、(日本円) 約 200 万円

※ 宿舎費を含めた金額を記入してください。

##### (4) 費用の持参方法

インターナショナルキャッシュカード/クレジットカード/国際ブランドプリペイドカード/現金/その他 ( )

⇒ その方法についての感想、良かった点・悪かった点

日本から持参したソニー銀行のデビットカード、VISA のクレジットカード、現地で作ったオーストラリアの銀行のデビットカードの三点を利用していた。特にソニー銀行のデビットカードはこの留学のために作ったもので、日本円を口座に入れておけばサーチャージなく AUD として使えるため重宝していた。JASSO 奨学金などはすべてそのデビットカードに入るようにしていた。

##### (5) 「学習院大学海外留学奨学金」を受給した場合、その主な支出内容と金額の内訳

毎月 7 万円 (日本円での振込)、食費 5~6 万円 (外食費含める)、交際費、旅行費

#### 5. 保険について

##### (1) 保険会社名

OSHC のみ

##### (2) 保険料

約 AUD 7 0 0

##### (3) 加入した保険の種類、内容

OSHC

##### (4) 感想、良かった点・悪かった点

大学内のメディカルセンターは基本的にどんな検査をしても無料なのでとても助かった。ただ毎回オンライン予約が必要で、発熱してすぐに見てもらいたい時 (特に出席のある授業は Medical Certification の提出があれば欠席にならないため)などは予約が 1 週間後などで不便だった。日本での海外旅行保険に入っていれば日本語医療センターなど即日行けるため、日本での保険加入を勧める (一年いると注意していても体調を崩すことなど色々と病院に行く必要性が出てくる)。

## 6. 荷物について

### (1) 荷物の送付方法

手荷物／その他（両親が遊びに来た際に、持ち帰ってもらった）

### (2) 持って行って良かったと思う物

洗濯ネット(洗濯機はそのまま洋服を入れると破れてしまうほど強力)、スキンケア用品、コンタクトレンズ1年分、日焼け止め、下着

### (3) 持って行く必要が無かったと思う物

大量の洋服と靴(正直、ほとんどオーストラリアで購入できるためたくさん持ってきてすぎなくてもよい)、日本の調味料(ほとんどアジア食品店で安く購入できる)

### (4) 持って行けば良かったと思う物

特になし

## 7. 平日および週末の平均的な過ごし方

### (1) 平日

月から金までは授業とその予習復習、またジムに毎日通っていました。後期になると勉強と家事や余暇のバランスをとれるようになったため、授業のない平日には仕事をしていました（マードック大学は毎月の最後の一週間が STUDY WEEK という休暇になるため、仕事をしたり、旅行へ行ったり、勉強のキャッチアップをしたりといろいろな用途で使うことができます）。

### (2) 週末

前期は、ドイツ人、オーストリア人、フィンランド人の友人たちと朝ごはんを食べにカフェへ行ったり、車でロードトリップに行ったり、ハウスパーティーをしたり、ビーチへ行ってサーフィンをしたり泳いだりして外出していました。もちろん課題などが出ている時は平日休日ともに図書館で友人とともに勉強し、合間の時間でジムに行ったりお喋りをして気晴らしをしていました。前期は毎月 4~10 日間のロードトリップに行っていました。また後期はオーストラリア現地の観光会社でバイリンガルツアーガイドとして働き始めたため、仕事を入れたり、旅行をしたり勉強とのバランスを考えながらスケジュールを組んでいました。

## 8. 後輩へのアドバイス等

この留学での 1 年は自分の価値観を大きく変え、多くの刺激を受けて成長し、自立できるチャンスです。これまでに経験したことのないような困難に何度もぶち当たるかもしれませんが、それでも恐れずに、諦めずに挑戦し続け、自分のできる範囲から少しずつ進めていけば、必ず自分の変化を実感できる時が来るはずです。英語を上手に話すことよりも、沢山の友人をつくり、純粋にコミュニケーションを楽しんでみてください。1 年本当にあつという間です。楽しんだもの勝ちです！私は“やらないよりやる後悔”という言葉を常に心がけて過ご

していました。学生で多くを吸収できる今だからこそ、新しいものを見て、聞いて、触れて、思う存分オーギーライフを謳歌してください。またこの留学にあたり、サポートしてくれている家族や友人、その他多くの人への感謝を忘れずに、悔いのない1年間を過ごしてください。

## 9. その他、雑感や要望など書きたいことがある場合は自由に書いてください。

パースというこれまで聞いたこともなかった土地で1年間留学生活を送ったことで本当に大きく自分の価値観は変わりました。都会の近くで生まれ育ち、都会以外で暮らすことなど考えたこともなかった私が、この1年を経て、自然の中で穏やかに、時間に迫られずのんびり生きることの魅力を感じるようになりました。両親も周りの友人も皆この話をすると驚いていました。オーストラリア人が時間に追われず、人生の大半は余暇であるという日本人と正反対の考え方をしていることに気づき、このような生き方もあるのだな、よく見てみると確かに皆幸せそうな顔をしているなと思いました。もちろん日本人は働き者で真面目ですが、帰国して満員電車に乗った時、日本人のサラリーマンたちはなんて不幸せそうな顔をしているのだろう、日本で働くことは果たして幸せなのだろうか、とふと考えてしまいました。人間ないものねだりをする生き物なので、どちらが良い悪いとは一概には言えませんが、外を知ると自分が20年以上生きてきた国を完全な日本人としてはもう見ることはできないな、第三者として見ている気分だなと感じるようになりました。まずは日本で就活をし、日本国内で働いてみて、自分がどんな場所や環境、ヒトと働きたいのか見ていきたいなと思います。この1年は本当に自分の人生にとって重要な年になりました。協定留学生としてこのような機会を頂けたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。